

## ベルマーク新聞 9月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都中央区築地5-4-18 汐留イーストサイドビル7階 〒104-0045 電話 03-5148-7255(代表)  
郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ <https://www.bellmark.or.jp/>

## 地域をつなぐボランティア活動

 被災校に備品寄贈・国際医療福祉大の試み

④2019年、宮城・山元町立山下小での寄贈式

⑤寄贈先の福島・富岡町立富岡第一小を大学生が訪れ、交流した⑥8月24日にweb会議を使って取材。上段左から細貝良行教授、和田のみ子教頭、近藤正校長、大石剛史准教授(IUHWボランティアセンター長)、野澤拓夢さん(理学療法学科2年)、大島雅彦さん。下は左から福田規予子さん、大井工さん(放射線・情報科学科4年)、木村一翔さん(同科4年)、大橋理乃さん(薬学科4年)

国際医療福祉大学(栃木県大田原市)が6月、栃木県立栃木工業高校(近藤正校長)に大型扇風機3台を寄贈しました。同大の活動は、災害被災校などへの備品寄贈が目的で、自校のためにベルマーク預金を使ったことはありません。

活動の中心は大学にあるIUHWボランティアセンターですが、収集などには学校や企業なども協力し、地域社会を広範囲につないだ活動になっています。

近藤校長によると、昨秋の台風19号で近くを流れる川が氾濫し、校舎の1階が浸水しました。そこで、被害を知ったIUHWボランティアセンターが支援を申し出て、寄贈に至りました。

同大が活動を始めたきっかけは、学内にある保険代理店、株式会社セイフティケアからの提案でした。ベルマーク協賛会社のあいおいニッセイ同和損害保険(ベルマーク番号92)などの商品を扱っ

ています。橘久人さんによると「かつての上司が、学生向け商品のベルマークを活用したいと考え、提案しました」。

大学側は提案を受け入れ、収集に取り組むことを決定。学生の主体的な活動を促すために、医療福祉・マネジメント学科の大石剛史准教授による講義「ボランティアコーディネート論」で取り上げ、収集がスタートしました。

セイフティケアは現在もマーク収集に協力しており、橘さんは「回収することで、陰ながら学生の活動を応援している。運動に関わることが出来て嬉しいです」と話しました。

那須塩原市立三島小学校もマークを届けています。自校のベルマーク活動は休止状態でしたが、同大の活動趣旨に賛同し、今では5、6年生の福祉委員がマークを回収しています。和田のみ子教頭は「ボックスは常に置き、いつでも入れら

れるようにしています」と言います。

那須塩原市の社会福祉協議会も協力しています。20年ほど前から収集しており、マークを寄贈してくれる常連の人も多いそう。石崎修裕さんは「コロナ禍でも出来る活動として、10月の社協だよりにベルマークを掲載予定です」。

文房具や学校用品を販売する有限会社大島くじや(本社・栃木県大田原市)は、販売したカートリッジ類の回収をしています。「社会貢献活動は“永続的”にしないと意味を成さない」と話すのは社長の大島雅彦さん。活動を“買い手よし、売り手よし、世間よし”の「三方よし」だと例えました。

集まったマークは、有志が仕分けします。web会議には、仕分け経験のある大井工さん、木村一翔さん、大橋理乃さん、野澤拓夢さんが参加してくれました。学生以外に、放射線・情報科学科の細貝良

行教授も参加経験があり、「意外と、黙々とやれて、気分転換になる」と笑います。

一連の流れを支えるのはボランティアコーディネーターの福田規予子さん。「ベルマークを通して得られたのは、寄贈先、地域の方々、学生や先生方といったたくさんの方とのつながり」だと強調します。

福田さんは、いつか孫が生まれたら、学校に行ってベルマーク活動をしてみたいそうです。「お年寄りが社会の役に立つことを実感でき、コミュニケーションのツールにもなり得るのではないのでしょうか」と語ってくれました。

貴重なお話を聞かせていただき  
ありがとうございました



## へき地校・特別支援学校 151校を支援

 2020年度ベルマーク財団、リストは4ページに

ベルマーク教育助成財団は2020年度の支援として、全国のへき地校・特別支援学校計151校に対し、学校に必要な設備品や教材などを贈りました。4ページに支援した学校名を掲載しています。

例年実施している院内学級と海外の日本人学校については現在、支援先を決める作業をしています。また、今年で10年目となる東日本大震災被災校、さらには7月に九州を襲った豪雨の被災校も支援します。これらについて

は、決まり次第改めて報告します。



へき地校支援はベルマーク運動の原点です。へき地の学校の設備充実を訴える声が朝日新聞に届き、それにこたえる形で1960年10月24日、「教育設備助成会」ができました。これが今のベルマーク財団です。

今年度は100校に希望の備品・教材(25万円相当)と朝日ジュニア学習年鑑を贈りました。これまでに財団が

支援した学校は、のべ3万4420校。東日本大震災があった直後の2011年度を除き、毎年必ず実施しています。

特別支援学校への支援は1985年から始めました。今年度は計51校が対象。内訳は養護学校20、盲学校14、ろう学校17です。養護学校には希望の備品・教材を、盲学校には拡大読書器を、ろう学校には短焦点プロジェクターを贈りました。これまでに支援した学校は、のべ996校になります。